

2022年度 事業計画

社会福祉法人 晴誉会

1、総論

社会福祉法人晴誉会の掲げる理念のもと、以下の各項目において方針に則った保育・教育活動、施設運営の実現を下記の計画のもと推進していく。

2、2022年度の動向

＜組織体制＞

組織体制としては大きな変更を計画していない。2022年度においては、前年に継続して1法人2施設の体制の下、法人本部を含めた法人組織としての運営管理、組織体制の確立を課題としていく。

＜1号枠の受け入れと2・3号枠の定員について＞

昨年度の運営状況を鑑み、2022年度も1号認定こどもの積極受け入れは行わず、福祉提供を必要とする在園家庭への支援として1号枠を活用していく。

今年度も両施設のキャパシティを活かした受け入れを実施していく。

＜職員体制＞

経理状況を鑑みるに、過去の制度下では最大の職員数となる。

新制度下での対応を適正に行なうためにも、職員数の拡大・維持は必要であると思われる。

＜人材育成＞

2021年度は、職員の新型コロナウィルスの感染を予防し、園児への感染拡大を防ぐため、多くの研修への参加を中止せざるを得なかった。今後、情勢を見極め、各種研修を実施していく。

職員を確実に育成していくためにも中堅管理層（指導者層）および管理層の育成が課題である。今後も、職員の研修・育成体制の充実を図るために、またチュータ制度の一層の充実のためにも、外部講師による管理職層の研修を継続して実施していく。

今後も継続的に、各能力に応じた計画的な法人内人材育成を計画していく。

＜保育体制＞

近年の課題である法人の保育理念・基本方針に則した保育の継承継続に関しては、現在は施設間で保育の内容に差がある状況である。相互の年間計画の摺合せを継続していく。

2021年度は、新型コロナウィルスへの対応として行事の形態を変更した。感染症の状況に合わせた行事として利用者に改善として受け入れられる行事となったと感じている。

現代の保育に合わせ、大型行事の再構築を実施している。今後も利用者への丁寧な説明を行い、理解を得られるよう推進していく。

今後も時流にあった改善を継続していく。

3、施設運営・法人運営

＜山手台保育園＞

- ・ 2015 年度に大規模改修を実施したが、2018 年度の震災その他を受け園舎全体に補修・改修が必要な箇所が散見されている。必要な修繕を実施していく。
- ・ 地域の保育ニーズは、山手台東町・山手台新町への新規住人の流入に伴い、山手台地区の児童数が近年になく増加傾向にある。山手台新町3丁目の開発により、この傾向が継続する見込みである。
- ・ 育児休暇の延長や世情の推移に伴い、0歳児の保育ニーズがやや多く見られる。これは山手台新町のみならず茨木市北ブロックで見受けられる傾向である。

＜彩都保育園＞

- ・ 2006 年度から建築 15 年を迎え、園舎全体に補修・改修が必要な箇所が散見されている。長期的な修繕計画の実施を検討している。
- ・ 地域の保育ニーズは町の成熟に伴い やや低下傾向にあったが、彩都茨木市域に新たにマンションが建設され、彩都の保育ニーズは増加している。
- ・ 地域ニーズとしては、低年齢の受入希望・待機が多い状態である。

＜法人＞

- ・ 幼保無償化の影響を慎重に見極めていく。
- ・ 管理職員、中堅職員の育成に努めていく。
- ・ ICT を含めた業務省力化に努めていく。

4、保育を取り巻く環境

＜茨木市行動計画＞

2025 年度に山手台以北に新規園が設置される。巡回バスを基準とした 90 名定員という計画が示されている。

5、事業計画

＜彩都保育園の償還計画に関して＞

彩都保育園の建設資金の償還が行われている。継続的な資金計画が必要とされる。

以上